



スマートフォンをタッチすればモノが買え、人工知能(AI)や情報技術(IT)が生活のあらゆる場面を支える。利便性や効率性ばかりが重視される時代に、手間暇から得られるものは。信州で探った。

不便だけど 得られる利益

「不利益」を研究

京都先端科学大

川上浩司 教授(57)に聞きました



1964年、島根県出身。89年、京大院工学研究科修士課程を修了。岡山大工学部助手、京大情報学研究科助教を経て現職。「不利益」に関する著書多数。

新型コロナウイルスで多くのことが制限され、旅行や出張の機会も減りました。代わってリモートの技術が進展しましたが、信頼関係を築く上で実際に足を運ぶ、人と会うことの大切さに気付いた人もいます。この「不利益」とは日常生活の中で、あえて不便と思われることややり方を導入することで得られる利益です。大事なものは自分自身の利益になっているか、不便や手間を楽しんでいるかということです。

私自身、岡山大の助手時代、当時最先端のAIを研究し、最も人間の知的な部分と考えた「発想、デザイン」をAIに任せようと思いました。でも、人間がAIに従うような流れに疑問を持ちました。かけた手間が結果的に社会全体の利益になることもあります。「持続



可能性」や「環境保全」という大きな課題がありますが、その解決の一助になり得ます。自然豊かな長野だからこの可能性もあるはず。

便利な物を否定したり、古い物を使おうということではありません。でも便利さばかりを追求する理由も実はないのです。生活の中で少しの手間から生まれる利益に気付くことは物事を捉える視点が広がったことを意味します。それは皆さんの生活を豊かにしていくことでしょう。

燃料も薬剤も不要

ヤギが除草 恩がえしIILA

機械による除草と比べて手間も時間もかかるが、燃料も除草剤もいらない。飯田市立動物園の元飼育員2人が2020年にスタートさせた「エコ除草」。2匹のヤギが雑草を食べて処理する。これまで飯田下伊那地域の個人宅や事業所で除草に一役買って来た。むしゃむしゃと草をはむ愛らしい姿に「癒やされる」との声も。



準備さえ愛おしい

薪ストーブ愛用の 写真家 写風人さん(66)



準備に手間がかかるように見える薪ストーブ。冬は暖をとりながら鶏肉のロースト作り。熱したやかんでコーヒーを入れ、梅雨期は洗濯物もぱりぱりに。

一年間に使う薪は三トトラック四分。薪割りは無心になれる。棚にびっしり並んだ薪を見ると気持ちも良い。手間暇かける時間が愛おしい。

薪ストーブは環境にも優しい。木を間伐すれば森林の維持に役立つ。県内では豊かな森林資源を持つ伊那市が、設置する家庭を補助し普及を後押ししている。